

Tuned Import Car

メルセデスベンツのチューニング部門といえる「AMG」と、BMWのハイパフォーマンスモデルを手がけると同時に、モータースポーツ向けのアフターパーツ開発も行う「M」。両社から輩出される各モデルはエンジンや足まわりに手が入ったいわば生まれながらにしてのメーカー直系チューニングカーで、専用の内外装も持つなど、ベース車をはるかに凌駕する走りの性能と存在感、さらにプレミアム性までもがあたえられたモデルになる。ここで取りあげるのは、AMGとメルセデスベンツがタッグを組んで開発した初めてのモデルで、日本へは94年から導入されたW202型「C36」と、エンジンチューンをさらに煮つめてパワーアップを図りながら、カーボンパーツの多用でベース車M3に対して100kg以上の軽量化を達成した限定モデルE46型「M3 CSL」の2台だ。それぞれをベースとしたチューニングカーの詳細を見ていこう。



いまだ鮮明によみがえる
新車当時のインパクト

いまからもう10数年前、たしか96年か97年だったと思う。当時、いちばん下っぱの編集部長という立場ながら、先輩にたのみこんで「JAA-A（日本自動車輸入組合）試乗会」とつれてつてもらった。

大磯プリンスホテルの駐車場には「おいそれと手を触れちゃイケナイんじゃないか？」と思うくらい（試乗会だから、そんなことはないんだけど）、ピカピカの輸入車が勢ぞろい。その雰囲気に圧倒されながら、先輩やカメフランの手伝いで、そがしく飛びまわった。

試乗してインプレを書くのは先輩の仕事だ。超タイトなスケジュールのなか、予定どおり取材をおわらせるには、とうぜん下っぱ編集部長がステアリングを握らせてもらえる時間的余裕なんてあるはずがない……と思っただら、先輩から「いちど乗った」とあるクルマだし、いい機会だからひと走りしてくれば」と予想もしてなかったひとこと。それがAMG C36だった。

あたえられた時間は正味40分しかなかったけど、試乗できるんだから、時間が長いとか短いとかはどうでもよかった。

大磯から西湘バイパスに乗って西へ。流れにあわせてクルージングしてること、こくまっとうな4ドアセダンという印象しか受けない。

ところが、前方が開けたのをカクニンして、アクセルペダルを床まで踏みこんだ瞬間、C36は態度を大きく変えた。3速へのキックダウンと同時に、カタクク値で280km/hとは思えないほどの力強い加速がはじまる。スピードメーターの針が200km/hをこえ